

プレ試験 設計課題 「景勝地に建つ土間スペースのある週末住宅(木造2階建て)」

1. 設計条件

- ある地方都市の景勝地である郊外に、都会生活の4人家族が自然と触れ合うことのできる週末住宅を計画する。  
 計画に当たっては、次の点に留意すること。
- 敷地の南西側に広がる美しい山並みを一望できるよう配慮する。
  - 土間スペースの床高をGL+200とし、これと隣接する居室等との段差解消に留意する。
  - 子供室の日当たりに配慮する。
  - 計画全体を通じて、耐震性に配慮する。

(1) 敷地

- 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。
- 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。
- 建ぺい率の制限60%、容積率の限度は200%である。
- 地形は平坦で、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。
- 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。

(2) 構造及び階数

木造2階建とする。

(3) 延べ面積

必ず「140㎡以上、180㎡以下」とする。(ピロティ、玄関ポーチ、屋外テラス、バルコニー等は、床面積に算入しない。)

(4) 家族構成等

- 夫婦(40歳代)
- 子供2人(男子中学生、女子小学生)

(5) 要求室

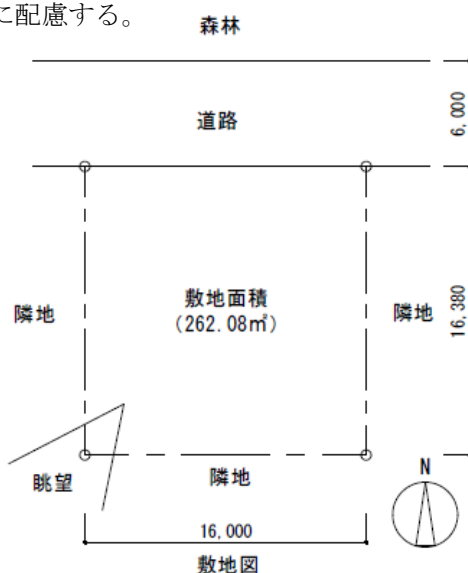
| 設置階                | 室名     | 特記事項   | 床面積      |
|--------------------|--------|--|----------|
| 1階                 | 風除室    |  | 適宜       |
|                    | 玄関スペース | ・風除室及び納戸(1)と隣接させる。   | 5㎡以上     |
|                    | 土間スペース | ・風除室・玄関スペース・納戸(1)とのFLを揃える。<br>・土足で使用するものとし、玄関スペースと隣接させる。<br>・下足入れを設ける。<br>・台所・食事室と兼用とする。<br>・作業台(幅750mm×奥行1,400mm)を設ける。<br>・収納棚(大きさ・個数は適宜とする)を設ける。<br>・上部に12㎡以上の吹抜けを設ける。 | 25㎡以上    |
|                    | 居間     | ・土間スペースと隣接させ、FLはGL+500とする。<br>・収納棚(大きさ・個数は適宜とする)を設ける。<br>・家族4人が使用するソファセットを置く。<br>・テレビ台を1台置く。   | 適宜       |
|                    | 洗面・脱衣室 |  | 4㎡以上     |
|                    | 浴室     |  | 4㎡以上     |
|                    | 便所     |  |          |
|                    | 納戸(1)  | ・玄関スペースと隣接させる。   |          |
|                    | 納戸(2)  | ・居間からの使い勝手に配慮する。   |          |
|                    | 2階     | 夫婦室  | ・収納を設ける。 |
| 子供室(1)             |        | ・収納を設ける。   |          |
| 子供室(2)             |        | ・収納を設ける。   |          |
| 便所                 |        |  |          |
| 納戸                 |        |  |          |
| ※廊下等のスペースの採光に配慮する。 |        |  |          |
| ・その他必要と思われるもの      |        |  |          |

(6) 駐車・駐輪スペース

- 家族用駐車スペース1台分(幅3m以上)

(7) 屋外テラスなど

- ウッドデッキ(上部には庇以外のものは設けないこととする。)
  - 直径2.4mの円が1つ入るようにし、20㎡以上とする。
  - 土間スペース及び居間と隣接させ、直接出入りできるようにする。
  - 眺望に配慮する。
- バルコニー
  - 2階に設けるものとし、眺望に配慮する。
  - 10㎡以上とする。



2. 要求図書

- 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する。ただし、寸法線は、枠外にはみ出して記入してもよい。
- 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(矩計図にあつては、10mm)である。
- シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてもよいものとする。

| 要求図書<br>( )内は縮尺                     | 特記事項  |
|-------------------------------------|---|
| (1) 1階平面図<br>兼<br>配置図<br>(1/100)    | ア. 敷地境界線と建物との距離、建築物の主要な寸法を記入する。<br>イ. 門、塀、植栽、駐車スペース等を記入する。<br>ウ. 室名を記入する。<br>エ. 居間と廊下のGLからの高さを記入する。<br>オ. 土間スペースに(流し台、調理台、コンロ台、冷蔵庫、テーブル、椅子、作業台、収納棚、下足入れ)を記入する。<br>カ. 居間に、ソファセット、テレビ台、収納棚を記入する。<br>キ. 浴槽、洗面台、便器、洗濯機その他必要と思われるものを記入する。<br>ク. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。<br>(注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう。(以下同じ)<br>ケ. 断面図、部分詳細図の切断位置を記入する。 |
| (2) 2階平面図<br>(1/100)                | ア. 建築物の主要な寸法を記入する。<br>イ. 室名を記入する。<br>ウ. 便器その他必要と思われるものを記入する。<br>エ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。<br>オ. 1階の屋根・庇も記入する。<br>カ. 断面図の切断位置を記入する。   |
| (3) 2階床伏図<br>兼<br>1階小屋伏図<br>(1/100) | ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階の管柱、胴差、2階床ばり、けた、小屋ばり、火打ばり、棟木・小屋束、もや・小屋束)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太及びたるきについては、記入しなくてよい。<br>イ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。<br>ウ. 建築物の主要な寸法を記入する。   |
| (4) 立面図<br>(1/100)                  | ・南側立面図とする。<br>・建築物の最高の高さを記入する。  |
| (5) 断面図<br>(1/100)                  | ア. 切断位置は、土間スペースの吹抜けを含む部分とする。<br>イ. 建築物の外形、床面及び天井面の形状がわかる程度のもので、構造部材(梁、基礎等)については、記入しなくてよい。<br>ウ. 建築物の最高の高さ、軒高、階高、天井高、1階床高、開口部の内法寸法及び主要な室名等を記入する。   |
| (6) 部分詳細図<br>(1/20)                 | ア. 切断位置は、1階居間の外壁の開口部を含む部分とする。<br>イ. 作図の範囲は、基礎及び床の部分(床の仕上面からの高さ200mm以上)とし、外壁の柱心から1,000以上とする。<br>ウ. 主要部材(基礎、土台、大引、1階根太など必要なもの)の名称・断面寸法を記入する。<br>エ. 床下換気口の位置・名称を記入する。<br>オ. アンカーボルト等の名称・寸法を記入する。<br>カ. 外気に接している次の部分の断熱・防湿措置を記入する。<br>キ. 主要な部位(外壁、床、内壁)の仕上げ材料名を記入する。  |
| (7) 面積表                             | ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。<br>イ. 建築面積及び床面積については計算式も記入する。<br>ウ. 数値は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。   |
| (8) 仕上表                             | ア. 主要な屋根の勾配を記入する。<br>イ. 外部の主要な部位(屋根、外壁)の仕上材料名及び下地材料名を記入する。<br>ウ. 内部(土間スペース)の主要な部位(天井、内壁、床)の仕上材料名及び下地材料名を記入する。   |

3. 計画の要点等

- 土間スペースと居間との段差の処理について工夫した点。
- ウッドデッキの利用について工夫した点。
- 耐震性に特に配慮した点。  
(それぞれ100字程度とする。)